

青崎有吾
『体育館の殺人』 (東京創元社)

913. 6/ア

- ◆風ヶ丘高校の旧体育館で放送部の部長である男子生徒が殺された。捜査に入った警察は、唯一犯行可能だった卓球部部長が犯人だと決めつける。しかし、部長の無罪を信じる一人の部員が学内一の天才と言われる「裏染天馬」に無罪の証明を依頼して・・・。

【自分が読んだ学年】 中3

【お勧めの点】 裏染天馬のキャラが良い。少しずつ真相が明かされていくところがとても面白い。

(谷野真優)

青柳碧人
『浜村渚の計算ノート』 (講談社)

913. 6/ア/1

- ◆少年犯罪の元凶として学校教育から数学が排斥された日本。それに憤る数学者ドクター・ピタゴラスこと高木源一郎が結成した「黒い三角定規」がテロ予告を行う。対抗すべく警視庁に迎えられたのは、女子中学生・浜村渚。渚は、卓越した数学能力と愛情を駆使して、テロリストと戦っていく。

【自分が読んだ学年】 中2、中3

【お勧めの点】 この本に出てくる事件はすべて数学と深く関わっていて、数学が好きな人にはおもしろいと思います。また、大人顔負けの数学力と推理力で難事件を解決していくので、とてもすっきりします。数学の豆知識なども登場するので、楽しんで読めると思います。

(高野華乃)

- ◆「数学の地位向上のため、国民全員を人質とする。」天才数学者・高木源一郎が始めたテロ活動。彼の作った有名教育ソフトで学んだ日本人は、予備催眠を受けており、命令次第で殺人の加害者にも被害者にもなり得る。テロに対抗して、警視庁が探し出したのは、一人の女子中学生であった。

【自分が読んだ学年】 中2

【お勧めの点】 フィボナッチ数列、フェルマーの最終定理など、一見とても難しい言葉に聞こえますが、数学があまり得意ではない私でも楽しく読めた本です。主人公たちのやり取りが面白く、少し読むと結末までがとても気になる本です。また、この本はシリーズが11巻あり、表紙の絵がいつも可愛く、次の話を読むのが楽しみにしていました。

(小谷日奈湖)

顎木あくみ
『わたしの幸せな結婚』 (KADOKAWA)

所蔵なし

- ◆異能の家系に生まれながら、その能力を受け継がなかった娘・斎森美世。能力を開花させた異母妹に使用人のように扱われ、親にも愛されず、誰にも必要とされない娘。唯一の味方だった幼馴染みも異母妹と結婚し、家を継ぐことに。邪魔者になった美世は、冷酷無慈悲と噂される久堂家に嫁ぐことになった。

【自分が読んだ学年】 中3

【お勧めの点】 現在、6巻までありますが、第1巻はきれいに後腐れなく終わっている所以、とても読みやすいと思います。読むのに2時間はかからないと思います。本が苦手で、飽きるという方、ぜひまずは第1巻を読んでみてください。

(佐伯すみれ)

あさのあつこ
『バッテリー』（角川書店）

913. 6/ア/1

◆主人公・原田巧の中学入学を前に、祖父のいる岡山県に引っ越して来た原田一家。そこでキャッチャーの永倉豪と出会う。本気で野球に向き合う二人に、多くの壁が立ちはだかる。

【自分が読んだ学年】 中1

【お勧めの点】 本を読むことがそんなに好きじゃない私でも、もっと読みたいと思える作品でした。野球を通して成長する主人公に心を動かされます。

(犬丸春緒)

◆父親の転勤で、引っ越しをし新田にやってきた主人公・原田巧。天才投手として期待される巧だが、性格のせいで、周囲と摩擦を広げる。しかし、捕手の永倉豪と出会うことで、ひたむきに野球に取り組んでいく。

【自分が読んだ学年】 中2

【お勧めの点】 投手の巧と、捕手の豪の関係の変化が面白い。思春期の複雑な心境。

(吉田七都)

浅葉なつ
『神様の御用人』（KADOKAWA）

913. 6/ア

◆膝の怪我が元で、フリーターとなった主人公・萩原良彦は、ある日突然、神様たちの御用聞きである「御用人」に任命されてしまう。『古事記』レベルのメジャーな神から、『古語拾遺』のニッチな神まで、各々の妙に人間臭い願いを叶えるために、今日も良彦は東奔西走する。

【自分が読んだ学年】 小学4年

【お勧めの点】 テンポの良い軽めの文体と、繊細な描写が特徴。個性的で親しみやすい神々と、それに振り回されながらも成長していくヒロイン(第2巻から登場)が素晴らしい。神社や神話が好きな人は絶対に楽しめる。そして、『古事記』や『日本書紀』が読みたくなると思う。マンガやドラマCDにもなっているので、そちらもオススメ。

(藤本優生)

天沢夏月
『拝啓、十年後の君へ。』（KADOKAWA）

所蔵なし

◆10年前に埋めた「タイムカプセル」によって繋がる高校生6人の青春物語。10年前に記した「今の自分」への手紙が彼らの運命を少しずつ変えていく。

【自分が読んだ学年】 中3

【お勧めの点】 高校生の物語ですが、6人の短編物語になっているので、中学生でも読みやすいと思います。優しい世界観で、読み終えても余韻に浸れる作品です。共感することが多く、心に響きます。

(村上 凜)

綾根鷹男
『若葉のあまみ』（上林春松本）

所蔵なし

◆馬勝が宇治のお茶を学ぶため、京都へ訪れる途中で各地の人々との出会いを描いた話。

【自分が読んだ学年】

【お勧めの点】 感動あり、歴史ありの話で、電車を乗り過ごすくらい夢中になります。

(原田光理)

有川 浩
『図書館戦争』 (KADOKAWA)

913. 6/ア

- ◆政府が厳しい検閲であらゆるメディアを取り締まる近未来の日本。そこでは、読書の自由を守る自衛組織・図書隊が対抗活動が続けていた。高校時代、図書隊員に大切な本を守ってもらった経験を持つ郁は、図書隊を志し、女性初の図書特殊部隊に選抜される。

【自分が読んだ学年】 中1

【お勧めの点】 あらゆる表現を取り締まるメディア良化法と、表現の自由を掲げ、それに対抗する図書隊という設定が読んでいて楽しいです。作中に出てくる個性豊かなキャラクターも、作品を飽きることなく読めるポイントだと思います。

(新谷瑛子)

有川 浩
『阪急電車』 (幻冬舎)

913. 6/ア

- ◆阪急電車に乗っている間の、様々な年齢、職業の人に焦点が当てられ、短編が繋ぎ合わさったものです。

【自分が読んだ学年】 中3

【お勧めの点】 舞台が宝塚駅から西宮北口駅なので、みなさんになじみのあるところだと思います。普通の人々の日常をストーリーの軸としているので、共感できる場面も多々あるでしょう。

(岡田真由子)

有川 浩
『空飛ぶ広報室』 (幻冬舎)

913. 6/ア

- ◆航空自衛隊の広報室を舞台に、不慮の事故によってパイロット資格を失い、広報室に配属された主人公・空井大祐が、経験豊富な先輩たちに囲まれながら広報官として成長していく姿を描く。

【自分が読んだ学年】 中1

【お勧めの点】 自衛隊に詳しくない人でも楽しく読むことができます。主人公の心情や成長していく姿が鮮明に描かれていて、読書の時間以外の時間にも読み進めたいくなります。自衛隊全面協力であり、自衛隊への賛否様々な意見がある今、自分の考えを深める一つのきっかけとして読んでみるのも良いのではないのでしょうか。

(曾我美咲)

五十嵐貴久
『スイム!スイム!スイム!』 (双葉社)

913. 6/イ

- ◆若い選手の台頭と、彼らに日本代表を任せたい水泳協会幹部の意向に抗い、次のオリンピックを目指す。

【自分が読んだ学年】 中2

【お勧めの点】 落ちぶれたオリンピックメダリストが、初心にかえり、一からひたむきに頑張るところに勇気がもらえます。

(平野あやめ)

乾 ルカ

『願いながら、祈りながら』（徳間書店）

913. 6/イ

◆田舎の中学校に、四人の中1、一人の中3、やる気のない新任がいて、近辺には塾も高校もなく、何もない環境の中で道を見つけようとする話。

【自分が読んだ学年】 中3

【お勧めの点】 自分たちが育った環境とは真反対と言ってもいいぐらいの環境で、今まで考えてもなかった環境の物語を読むことで、違う価値観を得ることができる点。

(中村美菜)

今村夏子

『むらさきのスカートの女』（朝日新聞出版）

913. 6/Ima

◆近所で有名な“むらさきのスカートの女”と友人になりたいくてストーカーする話。

【自分が読んだ学年】 高2

【お勧めの点】 とても奇妙です。最後の解釈はあなた次第だと思います。とても面白いので、一時間あれば読み終わります。

(清水咲里)

今村夏子

『こちらあみ子』（筑摩書房）

913. 6/イ

◆あみ子はちょっと風変わりな女の子。優しい父、一緒に遊んでくれる兄、書道教室の先生でお腹には赤ちゃんがいる母、憧れの同級生のり君。純粋なあみ子の行動が、周囲の人々を否応なしに変えていく過程を描いた作品。本作は『こちらあみ子』『ピクニック』『チズさん』の三編で構成されている。

【自分が読んだ学年】 高2

【お勧めの点】 「普段読書をしないので、おすすめの本はないか？」と聞いて友達から教えてもらったもの。私は、あとがきや解説文を読むのが何よりの楽しみなのだが、町田康さんの解説文には心打たれた。「一途に愛する者は、この世に居場所がない人間でなければならないのである。」「この小説を読んで私たちは、簡単な言葉で表しがたいものが確実に自分の中に残っているのに気づく。世の中で生きる人間の悲しさ全てを感じる。」読み終えた後の私の気持ちがそのまま言い表されている文だと思う。映画も是非。

(安藤智紗)

今村昌弘

『屍人荘の殺人』（東京創元社）

913. 6/イ

◆神紅大学ミステリ愛好会の葉村譲と明智恭介はいわくつきの映研の夏合宿に参加するべく、探偵少女・剣崎比留子とペンションを訪れる。しかし、想像だにできなかった事態に見舞われ、部員の一人が死体となって発見される。それは連続殺人の幕開けだった。

【自分が読んだ学年】 中2

【お勧めの点】 平凡で何事もない平和な毎日。することと言ったらつまらない推理ばかり。そんな人生に突然、終止符が打たれ、殺人の推理をしなければならない状況に置かれたら皆さんならどうしますか。ドキドキが止まらない本格ミステリー一本です。

(森口真衣)

上橋菜穂子
『獣の奏者』 (講談社)

913. 6/ウ/1

- ◆ 鬨蛇村に暮らす少女・エリンの幸せな日々は鬨蛇を死なせた罪に問われた母との別れを境に一転する。母の不思議な指笛によって死地を逃れ、蜂飼いのジョウンに救われて、九死に一生を得たエリンは母と同じ獣ノ医術師を目指すが・・・

【自分が読んだ学年】 中1

【お勧めの点】 異世界ファンタジーですが、魔法などではなく、この物語の世界がどこかで本当に存在していたのではないかと思うほど、描写が細かく、引き込まれてしまいます。運命に翻弄されながらも力強く生きるエリンの姿を見ていると、私も強く生きたいと思いました。

(角谷綾乃)

雨穴
『変な家』 (飛鳥新社)

913. 6/Uke

- ◆ 家の間取りに違和感を持った作者たち。間取りから見えてくる設計者の思惑や住人の狙いが明らかになる。

【自分が読んだ学年】 高2

【お勧めの点】 とても読みやすく面白いです。間取りを題材にしたミステリー小説で、自分も謎について考えることができ、楽しく読むことができます。

(稲富 杏)

宇山佳佑
『桜のような僕の恋人』 (集英社)

913. 6/ウ

- ◆ 美容師として働く明るい美咲に恋をした若きカメラマン見習いの晴人。恋人同士として共に未来へと歩み出した二人の前に思いもよらない展開が立ちはだかる。

【自分が読んだ学年】 中2

【お勧めの点】 文章が簡単で読みやすく、情景が頭の中に浮かびます。様々な人物の視点から残酷な現実に見え隠れする姿が描かれていて、とても心打つ作品です。

(小西瑞佳)

- ◆ 美容師の美咲に恋をした晴人。彼女に認めてもらいたい一心で、一度は諦めたカメラマンの夢を再び目指す。そんな晴人に美咲も惹かれ、やがて二人は恋人同士になるが、幸せな時間は長くは続かなかった。

【自分が読んだ学年】 中3

【お勧めの点】 涙が止まらなくなります。涙活におすすめです。読み終わった時の感情は、今でも覚えているくらい印象に残る作品です。

(長澤衣里子)

江戸川乱歩
『少年探偵団』 (ポプラ社)

913. 6/エ/2

- ◆ 探偵と助手たちが、なんやかんやする話です。

【自分が読んだ学年】 中1

【お勧めの点】 図書館にあるので、買わなくても読めます。不思議な世界観についてのめり込んでしまうので、本を読むのが苦手な方にも読みやすいと思います。面白いので是非読んでみてください。

(溝端一葉)

王城夕紀
『青の数学』（新潮社）

913. 6/オ

- ◆若き数学者が集うネット上の決闘空間「E2」。「数学って何？」ライバルと出会い、競う中で、栢山(かやま)はその答えを探していく。ひたむきな想いを、身体に燃える熱を数学へとぶつける少年少女たちを描く青春小説。

【自分が読んだ学年】 中2

【お勧めの点】 数学が苦手な人でも楽しめる！物語の中で出てくる数式を、主人公たちが一心不乱に解く姿を見ると、「自分も数学をしてみようかな」と思えるいい刺激になります。また、青春を賭して数学に全てをぶつけ興じる主人公たちが眩しく、読み終わってすぐ再読したくなる一冊です。

(川島一眞)

大沼紀子
『真夜中のパン屋さん』（ポプラ社）

913. 6/オ

- ◆都会の片隅に真夜中にだけ開く不思議なパン屋さんがあった。家庭の事情により親元を離れ、パン屋の二階に居候することになった女子高生・希実とオーナーの暮林、パン職人の弘基は“焼きたてパン万引き事件”に端を発した失踪騒動へと巻き込まれていく。

【自分が読んだ学年】 中3

【お勧めの点】 親元を離れることになった希実や、夜の街を徘徊する小学生など、それぞれの事情とそこから起きる事件が次第にわかっていくと、生きる幸せについて考えさせられました。

(森田芽衣)

おかべりか
『よい子への道』（福音館書店）

726. 5/0

- ◆よい子になるには何をしてはいけないのかを教える。

【自分が読んだ学年】 高2

【お勧めの点】 絵が描かれていてわかりやすい。

(牧野杏咲)

小川洋子
『博士の愛した数式』（新潮社）

913. 6/オ

- ◆家政婦をするシングルマザーの杏子は、80分しか記憶が持たない天才数学博士のもとに派遣される。博士は杏子の息子を「ルート」と名付け、孫のように可愛がり、野球や数学の話題を軸に仲を深めていく。

【自分が読んだ学年】 高3

【お勧めの点】 博士と息子と杏子の関係がとても温かく、読みやすいです。

(城千晃)

- ◆家政婦として「私」が派遣された先は80分しか記憶が持たない元数学者の「博士」の家だった。「私」の息子を「ルート」と名付け、三人の日々は温かさに満ちたものに変わっていく。

【自分が読んだ学年】 中1

【お勧めの点】 「私」と「ルート」と博士の三人の心の触れあいを美しい数式と共に描いた作品です。本を読みながら数式についても発見があるので、数学が好きな人はもちろん、そうでない人も読んでみてください。

(高橋利彩子)

荻原規子
『西の善き魔女』（中央公論新社）

913. 6/才/1

◆女王制の大国グラールの辺境に生まれた15歳の少女が、初めて参加した舞踏会に、母親の形見であるペンダントを付けていく。それをきっかけに彼女の日常は一変。グラールの秘密に迫っていく。

【自分が読んだ学年】 中3

【お勧めの点】 漫画、アニメもあるようですが、荻原さんの巧みな表現や色彩豊かな世界観が一番感じられる小説で読むことをお勧めします。8巻からなる長編小説ですが、一回手に取ると、ハマりすぎて手放せなくなるほど面白いです。主人公が、女子校に通う場面もあるのですが、女子校ならではの場面も多く、共感できるシーンが多いのも魅力です。

(古野佐和夏)

恩田 陸
『夜のピクニック』（新潮社）

913. 6/才

◆高校生活最後を飾るイベント「歩行祭」に臨む貴子は、小さな賭けを胸に秘めていた。三年間誰にも言えなかった秘密を清算するために・・・。

【自分が読んだ学年】 中2

【お勧めの点】 貴子の小さな賭けが最後一気に進展するのが面白く、すっきりと物語を読み終えることができた。

(圓尾咲歩)

◆高校生活最後を飾る伝統行事「歩行祭」を舞台に、親友たちと歩く青春小説。

【自分が読んだ学年】 高3

【お勧めの点】 景色、情景描写が繊細でいいなと思いました。

(安岡愛生)

桂 望実
『総選挙ホテル』（KADOKAWA）

913. 6/力

◆中堅ホテルに着任した新社長が打ち出した案は「従業員総選挙」。ホテル内の従業員の配置を選挙で決めるという斬新な人材シャッフル案だった。

【自分が読んだ学年】 中1

【お勧めの点】 お仕事小説だけど、とても気軽に読める。登場人物が多いけれど、それぞれ人間性があって面白いので、何度も読める。

(田中香鈴)

金沢伸明
『王様ゲーム』（双葉社）

913. 6/力/1

◆ある日突然届いたメール。そのメールに従わなければ殺される。誰を信じればいいのか。仲間との争い、絆を描いた物語です。

【自分が読んだ学年】 中2

【お勧めの点】 同年代の登場人物ということもあり、とても読みやすいです。次は何が起こるか分からない、ハラハラドキドキの展開。ぜひ読んでみてください。

(小野田万由)

金沢伸明

『王様ゲーム 終極』（双葉社）

913. 6/力/2

◆主人公の伸明の転校先で、再び王様ゲームが始まってしまう。クラスメートの本多奈津子や松本里緒菜と共に戦う。

【自分が読んだ学年】 中1

【お勧めの点】 内容も濃く、描写もリアルなので、ホラー好きの人にはとてもおすすめです。

(竹下美希)

川村元気

『世界から猫が消えたなら』（小学館）

913. 6/力

◆脳腫瘍で余命わずかと宣告された青年。絶望の最中、目の前に現れたのは自分と同じ姿の悪魔。世界から物を一つ消す代わりに自分の命が一日延びるという契約を交わす。大切なものとは何か、考えさせられる涙必須の温かい物語です。

【自分が読んだ学年】 中2

【お勧めの点】 世界から物を一つ消す代わりに余命が一日延びるという契約は、物で溢れかえった世界で生きる私たちにとって、一見有利なことのように思えます。しかし、物が消えるだけでなく、その物にまつわる思い出も消えてしまうとしたら、どうでしょうか。電話、映画、時計などが消えた世界に生きる主人公にきっと共感できるはず。心が温まるストーリーなので、ぜひ読んでみてください。

(笠原百花)

◆余命わずかな映画オタクの主人公は、この世界から何かを消す代わりに一日だけ命を得るという奇妙な取引を持ちかけられる。

【自分が読んだ学年】 中2

【お勧めの点】 映画化されている作品。当たり前の日常がどれほど幸せなものかを考えさせられる作品。

(中谷綺菜)

岸見一郎、古賀史健

『嫌われる勇気』（ダイヤモンド社）

146. 1/K

◆「世界は矛盾に満ちた混沌である」「誰もが幸福になれるわけではない」「人は変わらない」と主張する青年と、古都に住む哲人の二人の対話。

【自分が読んだ学年】 高1

【お勧めの点】 人間関係などの悩みを抱えた青年と哲人との対話を読むうちに、自分の悩みが少し解消されるような心の拠り所となる本。

(西口明優奈)

香月日輪

『妖怪アパートの幽雅な日常』（講談社）

913. 8/K/1

◆妖怪アパート。それは必要としている人にしか見えない。そこで起こる様々な奇怪な出来事。主人公・稲葉夕士はそれらを通して色々なことを学んでいく。

【自分が読んだ学年】 小学校高学年

【お勧めの点】 異世界感が楽しいです。戸惑うような出来事、笑えるような出来事。しかし時には感動するような深い話。もし目の前に現れたら入ってみたい。るり子さんのご飯は絶品らしい。

(武井祐香)

香月日輪

『地獄堂霊界通信』（講談社）

913. 6/コ/1

◆上院町に「イタズラ大王三人悪」の名を轟かせる悪ガキ・金森テツシ、新島良次、椎名裕介の三人は、身近に起こった事件がきっかけで、近所の不気味な薬屋、通称「地獄堂」に入り浸ることになる。

【自分が読んだ学年】 中1

【お勧めの点】 三人悪のテンポよく進む会話と、小学生だからこそ純粋な気持ちで正義の為に突っ走る爽快感、彼らを取り巻く面々も芯の通った人達なので、間違った方向には進まないという安心感もあります。そして、人として何を大切にしないといけないのかを考えさせられるお話です。

（成富由伊）

河野 裕

『サクラダリセット』（角川書店）

913. 6/コ

◆「リセット」という一言で、世界は三日分死ぬ一能力が集う街、咲良田に生きる時間を巻き戻す少女・美空と記憶を保持する少年・ケイ。繰り返す日常は、若者たちに何をもたらすのか！？

【自分が読んだ学年】 中2

【お勧めの点】 1巻から7巻まであるのですが、SF小説ならではの非現実的な世界観と、恋愛や友情など複雑な感情が入り乱れる現実的な人物の心情が折りなす物語に、ひき込まれます。角川つばさ文庫にて上下巻があり、感情表現が分かりやすく書かれています。私は角川文庫の方が深みが出て良いと思うので、こちらがおすすめです。

（勝村梨彩）

小島 環著／あなしん原作／おかざきさとこ脚本

『小説 春待つ僕ら』（講談社）

所蔵なし

◆引っこみ事案な主人公は、高校入学後も、クラスに馴染めないうでいた。ある日、バイト先に同じ高校の「四天王」と呼ばれる人達が現われ、その一人の言葉をきっかけに主人公が少しずつ変わっていく物語。

【自分が読んだ学年】 中2

【お勧めの点】 部活や自分のやりたい事を一生懸命頑張っている人や、また、したい事が見つからず一歩ふみだせないでいる人の背中を押してくれる小説です。

（濱崎 柚）

近藤史恵

『天使はモップを持って』（文藝春秋）

913. 6/コ

◆ビルの清掃員として働いているキリコと社会人一年目の大介は、一緒に会社内の謎を解決していく。推理小説。

【自分が読んだ学年】 中2

【お勧めの点】 とても読みやすい推理小説です。日常の謎を解決してくれ、読んでいておもしろかった。

（中川真那）

坂木 司
『和菓子のアン』 (光文社)

913. 6/サ

◆デパ地下の和菓子店で働く梅本杏子が、彼女の店長や同僚達と成長していく話。ミステリー要素もあります。

【自分が読んだ学年】 中3

【お勧めの点】 かわいらしいお話だった気がします。暗い要素はほぼないので、読みやすいと思います。

(小泉晴菜)

さくらももこ
『もものかんづめ』 (集英社)

914. 6/S

◆「宴会用の女」としてさくらさんは出版社に入社し、数か月だけOLをしていました。彼女は自分が色物担当として採用されていたことを知ります。仕事と漫画を天秤にかけてどちらを選ぶのか。「ちびまる子ちゃん」を完成させるまでの秘話も書かれています。

【自分が読んだ学年】 中2

【お勧めの点】 さくらさんの実体験が詰まった一冊です。1話完結で読書時間にも読みやすく、「ちびまる子ちゃん」の登場人物も出てくるので誰にでも読んでもらいやすく、とても面白い本なのでおすすめします。

(吉住璃音)

佐藤多佳子
『一瞬の風になれ』 (講談社)

913. 6/サ/1

◆神谷と一ノ瀬連の成長を描いた陸上の青春ストーリー。リレーの時は仲間、個人競技ではライバルになる二人をいきいきと描く。

【自分が読んだ学年】 中2

【お勧めの点】 青春を味わうことのできる本です。とても読みやすく、わくわくするので、ぜひ読んでみて下さい。

(早川清琉)

◆サッカー一家に育った少年が、高校入学を機に陸上部に転向。風変わりだが、抜群の才能を持つ親友や、走ることにひたすら熱い友人らとともに駆け抜ける、まさに風のような青春ストーリー。

【自分が読んだ学年】 中3

【お勧めの点】 思春期真っただ中の中学生在が読むのにピッタリな心が熱くなる本です。

(山森美由紀)

◆もともとサッカーをして育った少年が高校入学をきっかけに陸上を始め、才能のある友人、頼りになる先輩や後輩も共に部活に打ち込む青春ストーリー。

【自分が読んだ学年】 高1

【お勧めの点】 部活をする上で先輩や同級生、後輩がいてくれることの大切さを教えてくれます。毎日、必死に努力して練習を積み上げた結果の最後の結末に感動します。

(松井紗香)

佐野徹夜**『この世界にiをこめて』 (KADOKAWA)****所蔵なし**

◆彼女は、屈折した僕の唯一の女友達で、半年前に死んでしまった天才作家だった。あり得ないはずのメールのやりとりから、僕は失った時間を取り戻していく。やがて、遺された吉野の最後の言葉に辿り着いた時、そこには衝撃の結末が待っていた。

【自分が読んだ学年】 高2**【お勧めの点】** とても本に引き込まれるところ。

(櫻井優羽花)

汐見夏衛**『あの花が咲く丘で、君とまた出会えたら。』 (スターツ出版) 913.6/シ**

◆親や学校、すべてにイライラした毎日を送る中2の百合。母親とケンカをして家を飛び出し、目をさますと70年前の戦時中の日本だった。偶然通りかかった彰に助けられ、心が惹かれていくが、彼は特攻隊員で、ほどなく命を懸けて戦地に飛び立つ運命だった。のちに百合は、期せずして彰の本当の想いを知る…。

【自分が読んだ学年】 中3**【お勧めの点】** 小説で恋愛も入っていたため読みやすかったが、戦争の悲惨さや当時の日本を背負っていた軍の気持ちが分かる本でした。

(大西柊子)

志駕 晃**『スマホを落としただけなのに』 (宝島社)****913.6/シ/1**

◆主人公・麻美の彼氏の富田が、タクシーの中でスマホを落としたことが、すべての始まりだった。拾い主の男はスマホを返却するが、男の正体は狡猾なハッカー。麻美を気に入った男は、麻美を監視し始める。

【自分が読んだ学年】 中3**【お勧めの点】** リアリティがあり、スリリングな物語で、怖いものが好きな人におすすめです。スマホを落とすことへの危機感を感じる。

(豊田リリア)

重松 清**『きよしこ』 (新潮社)****913.6/シ**

◆名前はきよし。言葉がちょっとつかえるから、思ったことをなんでも話せる友だちが欲しかった。お話は、あるクリスマスの夜、不思議な「きよしこ」との出会いから始まる。出会い、別れ、友情、ケンカ、そしてほのかな恋…もどかしい思いを包むように綴られる「少年のすべて」。

【自分が読んだ学年】 中2**【お勧めの点】** 何気ない少年の日常を描いており、自分自身にも共感する部分があって楽しみながら読むことができた。吃音が嫌で無理に言葉を出さない場面が多々あり、切なくなることもあったが、それ以上に少年の成長をしっかりと感じることで勇気づけられた。

(大歳花奈)

- ◆あるクラスメートたちの物語です。事故で足を悪くしてしまった主人公の恵美ちゃん、病気を持った由香ちゃん、優秀な転校生に嫉妬する人気者、八方美人、いろんな子供が登場して、本当の「友だち」とは何か問いかけてくれます。

【自分が読んだ学年】 中1

【お勧めの点】 映画でみるのも素敵ですが、本で読むと映画にはないセリフ以外の描写が書いてあって、また違った楽しみ方ができます。

（武田京子）

- ◆わたしは「みんな」を信じない、だからあんたと一緒にいる…。足の不自由な恵美ちゃんと病気がちな由香ちゃんは、ある事件がきっかけでクラスのだれとも付き合わなくなった。学校の人気者、ブンちゃんは、デキる転校生、モトくんのこと何となく面白くない…。優等生にひねた奴。弱虫に八方美人。それぞれの物語が散りばめられた、「友だち」のほんとうの意味をさがす連作長編。

【自分が読んだ学年】 中3

【お勧めの点】 色々な人の視点で書かれた短編がいくつも連なり、長編となってます。「友だちってなんだろう？」という誰でも感じたことのある疑問に答えてくれるような物語で、共感できることがたくさんあるのでぜひ読んでみてください。

（向井絵美梨）

- ◆足の不自由な恵美ちゃんと病気がちの由香ちゃんは、ある事件がきっかけでクラスの誰とも付き合わなくなった。「友だち」のほんとうの意味をさがす連作長編。

【自分が読んだ学年】 中2

【お勧めの点】 本当の友だちの意味を知るきっかけができ、温かい友情を学ぶことができる。

（塚本すみれ）

- ◆学校という閉鎖的な所で「友達ってなんだろう」といろいろなエピソードを入り交えながら考える作品。

【自分が読んだ学年】 中1

【お勧めの点】 一匹狼的な存在の、足が不自由な恵美ちゃんが、自分自身をきちんともっていて、彼女の意見を読むと、どのように人と関わっていくことが大切か、考えさせられます。

（西谷樹乃）

- ◆わたしは「みんな」を信じない、だからあんたと一緒にいる。足の不自由な恵美ちゃんと病気がちの由香ちゃんは、ある事件がきっかけでクラスの誰とも付き合わなくなった。

【自分が読んだ学年】

【お勧めの点】 一人でも本当の友達がいれば、学校生活は楽しいものなのだと元気をもらったところがおすすめの点です。

（阪井文香）

- ◆頭がよくてちょっと意地悪な恵美ちゃんと、何をやってもぐずな由香ちゃんは、ある事故が起きてから誰とも付き合わなくなった。勉強もスポーツも抜群でライバル同士だったブンちゃんとモトくんは、あることがきっかけで全然チグハグに。それでも…衝突や痛みや喪失を乗り越えて輝く「友達という関係」を描く物語。

【自分が読んだ学年】 中3

【お勧めの点】 短編連作で読みやすく、様々な『きみ』に自分を重ね、自分にとって友達とはどういう存在かを考えることができます。主人公の恵美の言葉には勇気をもらえるものが多くあり、成長していく登場人物たちの誰かにきっと自分を重ね合わせることができるはずです。読み終わった後は、ほっこりした気持ちになれます。

（法貴莉子）

- ◆友達同士の二人が、あることがきっかけで、二人の人間関係にトラブルが生じてしまう。それでも困難を乗り越えて本当の友達になる。

【自分が読んだ学年】 中3

【お勧めの点】 友だちをテーマにした物語なので、人間関係に悩みやすい中学生の子たちにおすすめです。

(辻絵梨奈)

重松 清
『卒業』 (新潮社)

913. 6/シ

- ◆ある日、主人公のもとに14年前に自ら命を絶った親友の娘が訪ねてくる。彼女も生と死を巡る悩みを抱え、主人公は彼女から死を引き離そうとする。

【自分が読んだ学年】 中3

【お勧めの点】 自殺や死など重く、複雑な部分が多いため少し暗い気持ちになります。が、普段あまり考えないことを深く考えさせられる素敵な本です。

(古井明咲希)

重松 清
『小学五年生』 (文藝春秋)

913. 6/シ

- ◆小学5年生である男の子が主人公となって物語が続いていく短編小説である。中でも「プラネタリウム」という作品は、一期一会の出会いや兄弟愛の優しさなどを感じ心にしみる。

【自分が読んだ学年】 中2～3

【お勧めの点】 小学5年生の感情を描いた作品で、ドキドキ感や友達との関係性など、誰もが感じたことのある思いを繊細に表現している点。自分の子供の頃と重ね合わせて読むことができる。

(渡瀬史帆)

重松 清
『青い鳥』 (新潮社)

913. 6/シ

- ◆中学の国語の先生は言葉がうまく話せないが、授業よりも大事な仕事があると考えている。いじめの加害者になった生徒、父親の自殺に苦しむ生徒など、一人ぼっちの心に寄り添い、大切なことを教えてくれる物語。

【自分が読んだ学年】 中2

【お勧めの点】 「助けた」「救った」ではなく「間に合った」というような言葉の使い方が深いと思った。自分のその時の気持ちによって読んだ感想が変わってくるところ。

(高田友莉子)

重松 清
『一人っ子同盟』 (新潮社)

913. 6/シ

- ◆ノブとハム子は、同じ団地に住む6年生。ともに「一人っ子」だが、実はノブには幼いころ交通事故で亡くなった兄がいて、ハム子にも母の再婚で四歳の弟ができた。困った時は助け合う、と密かな同盟を結んだ二人は、年下のお調子者で嘘つきのオサムに出会う。

【自分が読んだ学年】 中1

【お勧めの点】 それぞれに悩みや葛藤があるからこそ、余計な干渉はせず最低限にお互いを支え合う二人の関係がとても良かったです。

(奥野花那子)

司馬遼太郎
『梟の城』 (新潮社)

913. 6/シ

◆伊賀忍者の生き残り・葛籠重蔵が忍者としての己を全うする為に秀吉の首を狙う。

【自分が読んだ学年】 中2

【お勧めの点】 自分を殺してまで忍者というものを追求する重蔵が、同じ忍者の小萩という女性に惹かれていくシーンが面白いです。

(井内明依)

清水杜氏彦
『うそつき、うそつき』 (早川書房)

913. 6/Shimi

◆国民管理のために嘘発見器である首輪着用が義務付けられた世界で、非合法の首輪除去技術を持つ少年フラノが辿り着いた真実とは？

【自分が読んだ学年】 中2

【お勧めの点】 私は中学生の時抑圧された気分だったので、抑圧と自由の対比、どこか集団社会の嫌な点を感じるこの本は中学生におすすめです。

(山本理恵子)

鈴木るりか
『14歳、明日の時間割』 (小学館)

913. 8/S

◆短編小説を学校の物語に見立てて、七つの物語が展開されていく。

【自分が読んだ学年】 中2

【お勧めの点】 1時間目の話から放課後の話まで、読んでいて楽しいです。

(徳山莉乃)

鈴森丹子
『おかえりの神様』 (KADOKAWA)

所蔵なし

◆独りぼっちで上京した主人公は、不幸が積もり、寂しさの限界になっていたところに「神様」だと名乗るためきが表れて・・・。

【自分が読んだ学年】 中2

【お勧めの点】 とても心が温まるストーリーだと思いました。大変な時期にためきの言葉を聞くと本当に安心します。たくさんの考え方があるなと再確認させてくれるすてきな本です。

(中村莉子)

住野よる
『君の膵臓をたべたい』 (双葉社)

913. 6/ス

◆自身の母校に勤める男性教師が、12年前、級友だった女生徒と過ごした最後の時間を回想する。膵臓の病に侵されていた彼女は、すでに亡くなっていた。一方、彼女の親友だった女性も、結婚を控え、亡き友との日々を思い出す。

【自分が読んだ学年】

【お勧めの点】
・会話がくだらなく、おもしろい。
・主人公の名前が最後の最後まで明かされない。
・「君の膵臓をたべたい」の本当の意味。

(八木花瑚)

◆主人公である「僕」は病院で「共病文庫」というタイトルの本を拾う。その本は「僕」のクラスメイトで山内桜良がつづっていた日記帳だった。本をきっかけに仲良くなる二人。次第に心を通わせて成長していく。

【自分が読んだ学年】 中2

【お勧めの点】 正反対の性格の二人がお互いに憧れをもち成長していく点。

(大江双葉)

◆ある日、高校生の僕は病院で一冊の文庫本を拾う。タイトルは「共病文庫」。それはクラスメイトの女の子が書いた秘密の日記帳でした。

【自分が読んだ学年】 中2

【お勧めの点】 すらすらと読みやすく面白かったです。誰にでも必ず明日が来るとは限らないということを学べました。

(遠藤美月)

◆僕はある日、病院で一冊の本を拾う。タイトルは「共病文庫」。その本の持ち主の山内桜良は僕のクラスメイトで、その本に書かれていたのは、彼女が脾臓の病気で死んでしまうこと。そして、彼女は僕に「内緒にしてほしい」と言った。これは名前のない「僕」と日常のない「彼女」との忘れることのできない切なき恋の記憶の物語。

【自分が読んだ学年】 中2

【お勧めの点】 映画でも有名になった作品ですが、小説で読むと小説だからこそ伝わる魅力があると思います。最後が決まっているとわかりながら、残り時間を過ごすのは心が痛く、結末と題名の意味は本当に苦しいくらい感動します。登場人物の心情が温かく繊細に描かれている作品なので、ぜひ一度読んで欲しいです。

(古川 栞)

◆「僕」がたまたまクラスメートの桜良の「共病文庫」という闘病日記を拾い、その中身を見た責任として桜良の死ぬまでにしたい事に付き合っ……。

【自分が読んだ学年】 中1

【お勧めの点】 ラストが衝撃的。主人公が高校生で、年代が近いので、10代で死を意識しながら生活している人がいること、命の大切さ、はかなさに気付くことができる。

(宮本真鈴)

瀬尾まいこ

『そして、バトンは渡された』 (文藝春秋)

913.6/セ

◆幼くして実の母親を亡くし、育ての親も離婚・結婚を繰り返したため、次々と親が変わる境遇で育った17歳の女子高生が主人公の物語。父親が三人・母親が二人という複雑な家庭環境の中、主人公の成長や血のつながらない親子の日常が温かい目線で描かれており、家族とは何かを問いかけている。

【自分が読んだ学年】 高2

【お勧めの点】 離婚や死別などで父親が三人、母親が二人という変わった経歴をもつ少女が主人公の物語。ここだけ聞くと、その設定を中心とした奇妙な話が展開されると思うが、内容は「家族の愛に触れられる、人が人を愛して心から大切にすること」がどういうことなのか、を感じることができた。映画化もされていて、読みやすい本だと思う。

(香月伶美)

瀬尾まいこ
『卵の緒』 (新潮社)

913. 6/セ

◆自分が捨て子だと気づいた主人公。そのことを母に尋ねるとあっさり認めた。そんな中、母が再婚することになって・・・。

【自分が読んだ学年】 高1

【お勧めの点】 あらすじに書いた『卵の緒』に加え、『7's blood』という物語が収録されています。どちらの物語もちょうど良い長さで読みやすいです。家族の心地よいあたたかさを感じることができます。

(丸山向日葵)

高田崇史
『試験に出るパズル：千葉千波の事件日記』 (講談社) 913. 6/タ

◆眉目秀麗にして頭脳明晰の天才高校生・千葉千波くんが従兄弟で浪人生の“八丁堀”たちとともに難問、怪事件を鮮やかに解き明かす。たっぷり頭の体操が楽しめる上質の論理パズル短編5本に「解答集」、森博嗣による解説まででんこ盛り！

【自分が読んだ学年】 中3

【お勧めの点】 ミステリー小説が好きな人におすすめです。また、お話の途中にはちょっとしたパズルやひらめき問題が入っているのでそれを解きながら読むのも良いと思います。

(大中彩愛)

太宰 治
『人間失格』 (新潮社)

913. 6/ダ

◆主人公の葉蔵は人間の営みが理解できないゆえに人と関わるができずにいたが、「道化」を演じることで他者と問題なく接することができるようになった。だが、中学に上がったころから他者は、自分の「道化」に気付いているのではという疑心感をもち、恐怖におそわれ、酒と煙草と女と薬に溺れ始め心中未遂や自殺未遂など精神異常になった。一度は幸せな結婚をし、幸福を手に入れたが、女に犯されまた不安定になり、最後は精神病院に収監されることになった。

【自分が読んだ学年】 中3

【お勧めの点】 純文学の中では読みやすい方だと思った。作品自体の雰囲気としては暗めだが、現代人にも近い所はあるのではないかな。

(角谷美津希)

田中孝幸
『13歳からの地政学：カイゾクとの地球儀航海』 (東洋経済新報社) 312. 9/T

◆高校生と中学生の兄妹が、年齢不詳の男「カイゾク」との会話を通じて、国際情勢やニュースの裏側を学んでいく。

【自分が読んだ学年】 中3

【お勧めの点】 最新の国際情勢を分かりやすく学ぶことができる。

(佐野円毬)

知念実希人
『天久鷹央の推理カルテ』（新潮社）

913. 6/チ/1

◆天医会総合病院の統括診断部には院内各科で「診断困難」とされた患者や、院外で起きた事件の相談依頼が集まる。そして、その難題を次々と解決していく。

【自分が読んだ学年】 中3

【お勧めの点】 ありえないような難題も簡単に解決していくので、とても読み応えがあります。

（小野江梨）

知念実希人
『屋上のテロリスト』（光文社）

913. 6/チ

◆1945年8月15日、ポツダム宣言を受諾しなかった日本はその後、東西に分断された。そして十数年後の今、学校の屋上で出会った不思議な少女・沙希の誘いに応え契約を結んだ彰人は、少女の仕組んだ壮大なテロ計画に巻き込まれていく。

【自分が読んだ学年】 高1

【お勧めの点】 この小説は主に三つの視点でストーリーが進んでいきます。小説の本文全体から、ありえたかもしれない架空の日本の空気を感じられるのがとても良いです。特に、歴史が好きな人におすすめです。ところどころ難しい話が出てきますが、詳しく解説してくれるので安心して読めます。小説を読むのが苦手な人もぜひ読んでみて下さい。

（阿部花音）

千原ジュニア
『14歳』（幻冬舎）

913. 6/チ

◆14歳の少年はある日、部屋にカギを付け、引きこもりを始めた。たくさんの不安や時間への焦り。「普通」を求める大人への苛立ち……。様々な思いを抱えて少年は自分探しへの旅に出る。

【自分が読んだ学年】 中2

【お勧めの点】 中学生の頃は誰しもが何らかの問題を抱えていたり、人間関係で苦しんでいたりします。今、成功している人にも辛く苦しい時期があり、いつからでも人生は挽回できるのだと教えてくれます。

（藤井小百合）

辻村深月
『ツナグ』（新潮社）

913. 6/ツ

◆一生に一度だけ、死者との再会を叶えてくれるという「使者（ツナグ）」。ツナグの仲介のもと再会した生者と死者。それぞれの思いをかかえた一夜の邂逅は、何をもたらすのだろうか。心の隅々に染み入る感動の連作長編小説。

【自分が読んだ学年】 中1

【お勧めの点】

- ・感動させられる物語で読みごたえがある。
- ・様々なテーマのストーリーで構成されており、飽きずに読める。
- ・生と死について、命の尊さについて考えさせられる作品。

（中村梨那）

- ◆いじめがきっかけで不登校になってしまった主人公が、鏡の中の世界、同じ境遇の子供たちが集まる世界に入り、次第に成長していくお話です。

【自分が読んだ学年】 中2

【お勧めの点】 いじめという現実的な問題がありながら、鏡の中の世界や、そこで出会う動物が話すなどファンタジーな要素もあって飽きることなく読めると思います。後半の伏線回収が一気にあって目が離せなくなるほどおもしろく、元気がもらえると思います。

（瀧本七美）

- ◆中学1年生の「ころろ」は不登校が続き、部屋に引き籠る生活をしていたが、ある日突然部屋の鏡が光り始め、その鏡をくぐり抜けた先には見ず知らずの7人がいた。

【自分が読んだ学年】 中2

【お勧めの点】 同じ問題を抱えていた者同士がお互いを理解し仲間となり成長していく。

（上西萌加）

- ◆同級生から受けた仕打ちが原因で不登校が続き、部屋に引き籠る生活を続けていた主人公の中学1年生の「ころろ」が5月のある日、自室の部屋が光りその向こうにお城で自分と似た境遇を持つ7人と出会い、彼らと共に冒険していく。

【自分が読んだ学年】 中3

【お勧めの点】 世界観に引き込まれていきます。

（奥谷芽依）

- ◆不登校で苦しむ主人公「ころろ」が自室の鏡を抜けた先には古城が。ころろと同じように苦しむ中学生七人と古城の謎を追いながら成長していく物語。

【自分が読んだ学年】 中1

【お勧めの点】 こころちゃんも他の登場人物もみな中学生で、中学生ならではの読み方ができる点です。何度読んでも結末がわかっていてもとても面白く、毎回ストーリーの中の伏線など気付きがあり、思わず物語の世界にのみ込まれる点です。

（濱田 光）

- ◆同級生から受けた仕打ちが原因で不登校が続き、子供育成支援教室（スクール）にも通えずに部屋に引き籠る生活を続けていた主人公の中学1年生の女の子「ころろ」が、5月のある日自室の鏡が光り、その向こうのお城で自分と似た境遇を持つ中学生7人と出会い、彼らとともに冒険していく。

【自分が読んだ学年】 中2

【お勧めの点】 少し量が多いので読むのに少し時間がかかるが、その分物語の内容はとても面白く、特にこの作品ならではの引き込まれるような独特な世界観が印象的。

（山下凜々花）

- ◆学校での居場所をなくし、閉じ込もっていた主人公の目の前で、ある日突然部屋の鏡が光始めた。輝く鏡をくぐり抜けた先には、城のような不思議な建物。そこにはちょうどころろと似た境遇の7人が集められていた一。

【自分が読んだ学年】 中2

【お勧めの点】 「終わって欲しくないなあ」と思いながら読んだ久しぶりの作品でした。今度映画化もするのでかなり話題な作品です。

（赤松幸音）

- ◆「私」は中学1年生のころ。普段なら学校に行く時間に家に居る、いわゆる不登校である。ある日、午前9時に自室の鏡が光っていることに気がつく。鏡に触ってみると、そこには大きな城があったー。

【自分が読んだ学年】 中2

【お勧めの点】 一冊の本の中に、「学校に行く」という現実と「城に行く」という異世界的展開という二つの要素が織り混ざっているのがおもしろい点だと思います。「学校に行く」という選択肢だけではなく、彼らに「他の居場所」があるのだということも伝えている心温まる物語です。

(田中美羽)

- ◆同級生から受けた仕打ちが原因で不登校が続き、子供育成支援学校（スクール）にも通えずに自宅に引きこもる生活が続いていた主人公の中学1年生の女の子「ころ」が5月のある日、自室の鏡が光り、その向こうにつながるお城で自分と似た境遇を持つ中学生7人と出会い、共に冒険する物語。

【自分が読んだ学年】 中3

【お勧めの点】 世界観としてはファンタジーなのに、思春期の主人公達の感情はどこかリアルで、同じ世代の自分たちにとって共感できるシーンがたくさんあり、そのおかげか、作品に入り込んだような感覚で読み進められる一冊です。本はぶ厚いですが伏線回収の効いた面白い本なので、ぜひ一度手に取って読んでみてほしいです。

(古町美優)

出口保行

『犯罪心理学者が教える子どもを呪う言葉・救う言葉』（SBクリエイティブ）379.9/デ

- ◆数々の犯罪者を心理分析してきた犯罪心理学の第一人者だからこそわかった、子育ての教科書。

【自分が読んだ学年】 高3

【お勧めの点】 よくある各論だけでなく実例があり面白い。言葉の力がもつポジティブ/ネガティブ両側面をていねいに解説していて読みやすい。

(宮口愛梨)

中田永一

『くちびるに歌を』（小学館）

913.6/ナ

- ◆アンジェラ・アキの『手紙～拝啓十五の君へ～』をモチーフにした物語。離島で暮らす合唱部の少年少女達の人生を描いている。そんな中学合唱コンクールを目指す彼らの切なくピュアな青春小説。

【自分が読んだ学年】 中1

【お勧めの点】 2015年に映画化され2022年12月に舞台が上演される予定である。登場人物それぞれの思いや苦しみを抱えながらも一つの目標に向かって挑む姿が、部活動や学校生活で青春を送る私達と重なる所があり、読むと勇気づけられる所がおすすめです。

(倉井萌由)

- ◆五島列島にある中学校の合唱部で部員たちが成長していきます。

【自分が読んだ学年】 中2

【お勧めの点】 コーラス部の人には読んでみてください。

(鈴木 葉)

風良ゆう
『わたしの美しい庭』 (ポプラ社)

913. 6/ナ

◆マンションの屋上庭園の奥にある縁切り神社。そこに訪れる生きづらさを抱えた人たちとわたしの物語。

【自分が読んだ学年】 中3

【お勧めの点】 誰もが生きづらさを抱く世の中で、少し変わった愛の形に共感できる。
(福味千穂)

梨木香歩
『西の魔女が死んだ』 (新潮社)

913. 6/ナ

◆中学に進んでまもない夏の初めに、学校に行けなくなったまいは、森で暮らす“西の魔女”のもとで暮らすことに。「何でも自分で決めること」を教わるが、この生活は“魔女修行”の始まりだった。

【自分が読んだ学年】 中3

【お勧めの点】 読み終わった後に心が温かくなります。おばあちゃんがまいに語る言葉はきっと同年代だからこそ刺さる気がします。それぞれの生き方に触れ、胸に響きます。
(松岡美祐)

七月隆文
『ぼくは明日、昨日のきみとデートする』 (宝島社) **913. 6/ナ**

◆京都の美大に通うぼくが一目惚れした女の子。彼女に声をかけ、交際にこぎつけた。気配り上手でさびしがりやな彼女には大きな秘密が隠されていて。「あなたの未来がわかるって言ったら、どうする？」奇跡の運命で結ばれた二人を描く、甘く切ない恋愛小説。

【自分が読んだ学年】 中2

【お勧めの点】 読み終わった後に、もう一度読み直したくなる。どちらの視点で読んでも切ない。切ないだけでなくキュンキュンもある。

(安 紗花)

西尾維新
『掟上今日子の備忘録』 (講談社)

913. 6/Nishi/1

◆眠ってしまうと記憶がリセットされる忘却探偵・掟上今日子。その特性故にすべての事件を(ほぼ)即日解決! あらゆる事件に巻き込まれ、常に犯人として疑われる不遇の青年・隠館厄介が持ち込む謎を事件の概要を忘れてしまう前に解決できるのか……。

【自分が読んだ学年】 中2

【お勧めの点】 眠ると記憶を失ってしまうため、事件の解決がスピーディーかつ斬新で病みつきになります。必死に油性ペンでメモを残す彼女を見て、忘却の儚さを感じます。シリーズものなので読み進めると今日子さんを好きになっていきます。

(高相満里奈)

馳 星周

『陽だまりの天使たち』（集英社）

913. 6/ハ

◆白血病を患っている、中学生の女の子。千尋が、ある日、保護犬の譲渡会で、一匹のトイプードル・ダンテと出会う。その日から千尋の人生は変わってゆく。

【自分が読んだ学年】 高1

【お勧めの点】 登場人物の女の子は、中学生なので、千尋の心情と、皆さんの心情を置き換えて、自分の視点で読むことができます。本の冒頭にある巻頭詩では、犬たちの心の声の詩があり、人間と犬は、こんなにも考え方が違うのだと圧倒されます。犬を飼っている人は特に、読んでいただきたい本です。

(岳山ひなた)

畠中 恵

『しゃばけ』（新潮社）

913. 6/ハ/1

◆江戸有数の薬屋の一人息子・一太郎は、めっぽう体が弱く外出もままならない。ところが、目を盗んで出かけた夜に人殺しを目撃。

【自分が読んだ学年】 小5

【お勧めの点】 妖怪がたくさん登場する探偵もの。主人公は、身体はひ弱だが性根のすわった若ぼっちゃん。妖怪達に愛されていて面白い。可愛いキャラクターが多い。

(佐藤菜七子)

浜口倫太郎

『22年目の告白：私が殺人犯です』（講談社）

所蔵なし

◆川北未南子のもとに「私が殺人犯です」という原稿が送られてきて、たちまちベストセラー作品となった。その内容は22年前におきて時効となった連続殺人事件の犯行を告白したものだった。そして作者の曽根崎は熱狂をあおるかのように世間を挑発し続ける。

【自分が読んだ学年】 中2

【お勧めの点】 映画化もされており、とても読みやすくおもしろいです。

(三好渚紗)

はやみねかおる

『名探偵夢水清志郎事件ノート』（講談社）

913. 6/ハ/1

◆中学1年生の岩崎亜衣の家の隣に元論理学教授（らしい）、自称名探偵の夢水清志郎が引っ越してきた。亜衣、そして三つ子の姉妹である真衣、美衣、そして教授と共に数々の事件へ向かう。

【自分が読んだ学年】 中1

【お勧めの点】 ミステリーを読んだ経験や興味の有無に関わらず、読みやすく魅了される作品。三つ子の掛け合いや、教授のギャップ、そして時には切ない、意外と奥深いストーリーにきっと胸が打たれるでしょう。

(加藤優月)

はやみねかおる

『都会（まち）のトム&ソーヤ』（講談社）

913. 8/H/1

◆自称“どこにでもいる中学生”の内藤内人は、ひょんなことから学校きっての秀才、竜王創也と一緒に究極のゲームを作ることになるが・・・！？

【自分が読んだ学年】 小学4年

【お勧めの点】 自分たちにとって身近な楽しい場所である街中や学校で、物語が進んでいくので読んでいて楽しい。物語が平目じゃない（飽きがこない）ので読みやすい。絶対に漫画版とか映画の小説じゃなく、原作を読んでください。

(金田真弥)

東川篤哉

『謎解きはディナーのあとで』 (小学館)

913. 6/ヒ/1

- ◆新米刑事・宝生麗子は世界的に有名なお嬢様。大豪邸に帰ると、難解な事件にぶちあたるときに、相談するのは執事兼運転手・影山。毒舌で麗子の推理力のなさを指摘しつつ、影山は鮮やかに謎を解き明かす。

【自分が読んだ学年】 中2

【お勧めの点】 麗子と影山のコミカルな掛け合いが面白い。影山の事件現場に赴かずとも、聞いただけで解決してしまう所も見どころですが、麗子と上司のお粗末な推理も見所。短編集の構成で読みやすく、ドラマ化してるので一緒に楽しむのも一興です。

(小路法花)

東野圭吾

『流星の絆』 (講談社)

913. 6/ヒ

- ◆何者かに両親を惨殺された三兄妹は、流れ星に仇討ちを誓う。14年後、互いのことだけを信じ、世間を敵視しながら生きる彼らの前に、犯人を突き止める最初で最後の機会が訪れる。三人で完璧に仕掛けたはずの復習計画。

【自分が読んだ学年】 中3

【お勧めの点】 犯人が誰か気になって、読みはじめると止まらない。兄妹で両親の仇討ちをするために計画を立てていくのがおもしろい。

(北村彩華)

東野圭吾

『マスカレード・ホテル』 (集英社)

913. 6/ヒ

- ◆ホテルで開催される大晦日のパーティーに、都内で起きた殺人事件の犯人が現れるという密告状が、警察に届き、潜入捜査のためにフロントクラークとして働くことになる刑事とホテル従業員がコンビを組み、犯人の手掛かりを求めて捜査を開始する。

【自分が読んだ学年】 中2

【お勧めの点】 複雑に絡まった密告者や犯人といった人間関係が真相を見えづらくし、展開に引き込まれていく点。

(三浦菜子)

- ◆都内で起きた不可解な連続殺人事件。次の犯行現場としてあるホテルが浮上、ターゲットも容疑者も不明のまま、潜入捜査を決定する。

【自分が読んだ学年】 中3

【お勧めの点】 最後まで展開がよめず、ハラハラできます。

(下村真未)

- ◆東京都内で三件の予行殺人事件が起きた。現場に残された暗号から、三つの事件は連続殺人事件として操作される。暗号を解読すると、次の現場は高級ホテル「ホテル・コルテシア・東京」でおこると推測された。数名の捜査員がホテルのベルボーイやスタッフに扮してホテルで監視することを強られる。刑事・新田とホテルマンである山岸がホテルマンとして時には刑事として、出来事を解決していく。

【自分が読んだ学年】 中2

【お勧めの点】 この小説は映画化もしていて、読んでいてスリルを感じる場面や感動する場面もあったりして面白いので、是非読んでみて下さい。

(西村那々歌)

東野圭吾
『ナミヤ雑貨店の奇蹟』 (KADOKAWA)

913. 6/ヒ

◆悪事を働いた三人は、逃走用の車が故障し、仕方なく廃業している雑貨店に逃げこむと、誰も住んでいないのに悩みの相談が書かれた手紙が届く。内容から過去の人ではないかと疑い、三人は返事を書いてポストに入れると手紙が消える。時空を超えた手紙が未来を変える。

【自分が読んだ学年】 中1

【お勧めの点】 悪事を働いた三人が真面目に悩みに答えようとしたり、返事に一喜一憂するところにほっこりできます。全く関係のないように見える現在の三人と過去のナミヤさんが悩み相談を通して、実は色々なことにつながっているのがおもしろい。

(阪本えみり)

東野圭吾
『ラプラスの魔女』 (KADOKAWA)

913. 6/ヒ

◆硫化水素中毒による死亡事故が発生。警察に協力する地球化学の専門家は事件性を否定するが、数日後には別の場所で再び同様の事故が起きる。それらの被害者二人は知人同士だった。そして悩む彼の前に、自然現象を予見できるという女性が現れる。

【自分が読んだ学年】 中1

【お勧めの点】 本を読むのに慣れていない人でも、ミステリーなので面白くて読み切ることができる点。一見超能力と思われる能力が、実は私たちにも備わっている能力の発展版のようなのだとおもえるところが面白かった。

(平田明日咲)

東野圭吾
『マスカレード・ナイト』 (集英社)

913. 6/ヒ

◆ホテル・コルシア東京で開催される大晦日のパーティー「マスカレード・ナイト」。都内でおきた殺人事件の犯人がイベントに現れるという密告状が届く。潜入捜査のために再びホテルのフロントで働く羽目になる新田刑事。真面目すぎるホテルの従業員・山岸と再びコンビを組み、犯人の手掛かりを求めて捜査をする。

【自分が読んだ学年】 高1

【お勧めの点】 人気作品マスカレード・ホテルの次作「マスカレード・ナイト」は映画化もされており、人気です。性格が真逆すぎる新田と山岸のペアがぶつかり合いながらも協力していく姿はすごく面白いです。ですが、やはり最後の最後までどうなるか分からないハラハラドキドキと、「こうだったんだ。」と伏線が回収されるのがとてもみどころです。

(小村文夏)

百田尚樹
『カエルの楽園』 (新潮社)

913. 6/Hya

◆国を追われた二匹のアマガエルは、辛い放浪の末に夢の楽園にたどり着く。その国は「三戒」と呼ばれる戒律と、「謝りソング」という奇妙な歌によって守られていた。だが南の沼に棲む凶暴なウシガエルの魔の手が迫り、楽園の本当の姿が明らかになる……。

【自分が読んだ学年】 中2

【お勧めの点】 日本人はたびたび「平和ボケ」と言われる事が多いですが、その事について痛烈にまたユーモアも交えながら描かれている物語です。これからの未来を担っていくみなさんにぜひ読んで頂きたい作品です。また現在のウクライナ侵攻のニュースとも関連できるような気がするので、平和について再び考えるきっかけとなれば良いと思っています。

(上野央楽)

日向夏
『薬屋のひとりごと』（主婦の友社）

所蔵なし

- ◆医師である養父を手伝い、薬師として働く少女、猫猫（マオマオ）は人さらいによって後官に下女として売られてしまう。年季が明けるまで目立たぬように勤めるつもりが、皇子の衰弱事件の謎を解決したことから、高官である壬氏（ジンシ）に気に入られ、様々な事件の解決を手伝わされることになる。

【自分が読んだ学年】 中3～現在

【お勧めの点】 近年流行の中華小説です。至る所に伏線がちりばめられていて話が進む度に引き込まれます。猫猫のひとりごと、そして壬氏と猫猫のやりとりが面白いです。現在、小説は12巻まで販売されていますが基本1巻で解決するのでぜひ読んでみて下さい。尚、コミカライズ化もされています。

（小林真依）

吹井 賢
『破滅の刑死者』（KADOKAWA）

所蔵なし

- ◆一人の大学生・戻橋トウヤとともに事件を解決するシリーズ。ある怪事件と同時に国家機密ファイルも消えた。“普通ではありえない事件”を扱うところに配属された新米捜査官・雙ヶ岡珠子は目撃者・トウヤの意外な協力を得る。命知らずなトウヤは誰も予想しえないやり方で、次々と事件の核心に迫っていくが・・・。

【自分が読んだ学年】 高2

【お勧めの点】 ギャンブル・どんでん返し・サスペンス・ミステリが好きな方におすすめです。主人公が常に命をかけながら事件の核心に迫っていきます。普通の人には理解できない狂気を持つ主人公・トウヤと正義を指針に生きる珠子の組み合わせが面白いです。

（辰馬理子）

ブレイディみかこ
『ぼくはイエローでホワイトで、ちょっとブルー』（新潮社）376.333/ブ

- ◆英国に住む親子のノンフィクション物語。主人公の「ぼく」は元・底辺中学校に通うが、そこでの学校生活は事件ばかりで、人種差別やセクシュアリティへの偏見、貧富の差など世界の問題の縮図のようである。

【自分が読んだ学年】 高1

【お勧めの点】 主人公の「ぼく」と母親が人種差別やセクシュアリティへの偏見、貧富の差について話し合っている場面では、それらの問題をミクロの視点で据えることができ、自分の中で考え方が変わったり、新たな見方を発見したりできる。この一冊の本から様々な人々の生の声を聞くことができる。

（王 珠梨）

星 新一
『ようこそ地球さん』（新潮社）

913.6/ホ

- ◆SF小説。宇宙進出など、文明の発展した未来に待つ悲喜劇を奇想天外に描いた42編が収録されている。

【自分が読んだ学年】 中2

【お勧めの点】 一つの話が短く、さくっと読めるので読みやすいのでおすすめです。一話一話の設定を細かく想像しながら読むのがとても楽しいです。科学技術が進んだ未来において人々がどんな行動をするのか・・・どの話をもっと長く読みたいと思わされます。その中でも「処刑」という話がちょっとホラーな感じもしておすすめです。

（西河知咲）

星 新一
『悪魔のいる天国』（新潮社）

913. 6/ホ

◆ふとした気まぐれや思いつきによって人間を残酷な運命へ突きおとす「悪魔」の存在を、卓抜なアイデアと透明な文体を駆使して描き出すショートショート36編。日常社会、SFの世界、夢の空間に広げられるファンタジア。

【自分が読んだ学年】 中1

【お勧めの点】 文字を読むのが苦手な人でも本を読んだあとの興奮や、何とも言えない取り残された感を味わえるとても素敵な本です。私のおすすめの作品は「ゆきとどいた生活」です。「自分たちが大人になるとこんな世界になるのかな」とわくわくしていたときに訪れる予想を裏切る結末に、恐怖を覚えました。これを機に是非とも科学の臨界点について考えて頂きたいです。

（直木美璃）

星 新一
『ノックの音が』（新潮社）

913. 6/ホ

◆「ノックの音がした」から始まる15のショートストーリー。

【自分が読んだ学年】 中1

【お勧めの点】 星新一の作品はショートストーリーが多く、展開も面白くておすすめです。星新一が好きになった方は「5分後に意外な結末」シリーズもオススメです。

（本田紫苑）

星 新一
『盗賊会社』（新潮社）

913. 8/H/12

◆私は盗賊株式会社の社員。泥棒ごっこのおモチャの製造販売の会社ではない。れっきとした、泥棒を営業とする会社だ。そんな仕事があったのかと内心うらやましがる人も多いかもしれない。平凡な日常の繰り返しにあきあきしている人ならば。

【自分が読んだ学年】 中3

【お勧めの点】 一つ一つの話がちょうどいい長さで読みやすく、長いと飽きてしまう人にもおすすめです。結末もすっきりしていておもしろいです。

（森下莉帆）

星 新一
『星新一ショートショートセレクション（全十五巻）』（理論社）

913. 8/H/1

◆ショートショートとは短編よりもっと短い小説のことです。SF小説作家である星新一さんの1000を超える作品の中から厳選されたYA向きのショートショート集です。

【自分が読んだ学年】 小学校高学年くらい

【お勧めの点】 全15巻のうち、どれから読んでもおもしろいと思います。ショートショートなので朝読中に丁度1話読み切れると思います。不思議な星新一さんの世界観にきっと引き込まれるでしょう!!ラフに深く考えず読んでみて下さい。

（榊村千紘）

町田そのこ 『52ヘルツのクジラたち』 （中央公論新社）	913. 6/Machi
-----------------------------------------------	---------------------

◆自分の人生を家族に搾取されていた女性・貴瑚と、母に虐待され「ムシ」と呼ばれていた少年。孤独ゆえ愛を欲し、裏切られていた彼らが出会い、新たな魂の物語が生まれる。

【自分が読んだ学年】 高1

【お勧めの点】 登場人物たちが誰にも届かない声で鳴く52ヘルツのクジラのように孤独を抱えていて、いろいろな社会問題について考えられるお話です。

（岡本歩実）

真梨幸子 『6月31日の同窓会』 （実業之日本社）	913. 6/マ
--------------------------------------------	-----------------

◆あるはずのない6月31日に開催される同窓会の招待状が届いた人は皆、何かしらの理由で死んでいく。伝統ある女子高の卒業生たちの思惑が段々と見えてくる。

【自分が読んだ学年】 高3

【お勧めの点】 時系列や語り手が頻繁に変わっていき、付いていくのが大変ではあるが、最後まで読むと呆気にとられる点。

（佐茂千晶）

三浦綾子 『塩狩峠』 （新潮社）	913. 6/ミ
-----------------------------------	-----------------

◆明治末年、北海道旭川の塩狩峠で、自らを犠牲にして大勢の乗客の命を救った青年の愛と信仰に貫かれた生涯を描いた作品。

【自分が読んだ学年】 中2

【お勧めの点】 実話を元に描かれており、心情描写がきれいで、読みやすいのでおすすめです。

（石堂愛子）

三浦しをん 『神去なあなあ日常』 （徳間書店）	913. 6/ミ
------------------------------------------	-----------------

◆高校卒業後に林業に従事することになった主人公。過酷な山仕事に逃げ出そうとすることもあったが、次第に村の自然に魅了されていく。

【自分が読んだ学年】 中3

【お勧めの点】 林業についてあまり知らなかったのですが、自然と向き合っている姿勢がすごいと思いました。とても読みやすく、読みながら自然の情景が頭に浮かんできます。

（立石優羽）

水野敬也 『夢をかなえるゾウ』 （飛鳥新社）	913. 6/ミ
-----------------------------------------	-----------------

◆日本で一番読まれている自己啓発小説。ある日、無気力だった主人公の前に不思議なゾウ・ガネーシャが現れる。そのゾウは実は夢をかなえてくれるゾウで、そのアドバイスのおかげで人生は好転していく。

【自分が読んだ学年】 中3

【お勧めの点】 とても読みやすく、説得力のあるアドバイスが多数載せられています。ガネーシャの自由奔放な生き方に振り回されつつ、夢を叶えていく主人公がとても面白いです。夢や希望を与えてくれる小説です。

（佐藤加菜）

◆ごく平凡なサラリーマンが「神様」を名乗る謎の生物・ガネーシャの指南によって自らの人生を変えていく物語。

【自分が読んだ学年】 高1

【お勧めの点】 単純なストーリーだし、難しい内容でもないなので、オススメです。夢を叶えるためにすべきことリストが書かれており、中学生の時からそのリストを実行していたら素晴らしい女性になると思います。

(河口仁菜)

◆ダメダメなサラリーマンの前に突然現れた関西弁を喋るゾウの姿をした神様“ガネーシャ”。ベストセラー『ウケる技術』の著者が贈る、愛と笑いのファンタジー小説。

【自分が読んだ学年】 小学生

【お勧めの点】 インドの神様であるガネーシャが関西弁を話してる矛盾がおもしろいです。小説を読むのが苦手でも、続きが気になってスラスラ読めます。

(柳澤千尋)

湊 かなえ 『告白』(双葉社)

913. 6/ミ

◆生徒によって娘を殺された中学教師の復讐劇が始まる。

【自分が読んだ学年】 中2

【お勧めの点】 複雑な物語ではないので読みやすい。胸糞悪さがクセになる。

(齊藤 響)

◆我が子を校内で亡くした女性教師が、終業式のHRで犯人である少年を指し示す。ひとつの事件をモノログ形式で「級友」「犯人」「犯人の家族」から、それぞれ語らせ真相に迫る。

【自分が読んだ学年】 中2

【お勧めの点】 話の内容は重めですが、それぞれの登場人物の淡々とした語りで話が進んでいくため、途中で飽きることなく読み進めることができます。特に終盤はどうなるのか予想がつかず、物語に引き込まれます。ラストの衝撃は忘れられません。

(塚尾真帆)

湊 かなえ 『少女』(双葉社)

913. 6/ミ

◆親友を亡くした友人の話聞き、「人が死ぬのを見たい」と思った女子高生二人の話。二人は夏休みに、老人ホームと病院へ行きボランティアをすることになり……。

【自分が読んだ学年】 中3

【お勧めの点】 伏線回収がきれいにされていて面白いです。女子高生二人の複雑な心情描写がリアルで面白かったです。

(角谷咲幸)

湊 かなえ 『母性』(新潮社)

913. 6/Mina

◆女子高生が自宅の庭で倒れているのを発見される。「愛能う限り、大切に育ててきた娘がこんなことになるなんて」と母親は言葉を詰まらせる。11年前の台風の日、彼女たちの幸福は突如奪い去られてしまう。母の手記と娘の回想が入りまじり、真相が浮かび上がる。圧倒的に新しい「母と娘」を巡る物語。

【自分が読んだ学年】 中3

【お勧めの点】 読んでいくと、どんどん感じる違和感にドキドキし、読む手が止まらなくなります。湊かなえ先生の本はどれも読みやすく、続きが気になると思われる作品ばかりなのでおすすめです。

(津畑桃花)

湊 かなえ
『高校入試』 (KADOKAWA)

913. 6/ミ

- ◆高校入試前日、黒板に「入試をぶつつぶす！」と書かれた張り紙を見つける。入試当日、ネット掲示板にテスト内容が流れ、学校側も保護者も受験生も混乱。誰がうそをついているのか、人間の本性があらわになる物語。

【自分が読んだ学年】 中3

【お勧めの点】 入試という制度に対するそれぞれの人間の思いが描かれている所を感じてほしいです。

(大友菜央)

湊 かなえ
『豆の上で眠る』 (新潮社)

913. 6/ミ

- ◆小学校1年生の時、結衣子の2歳上の姉・万佑子が失踪した。スーパーに残された帽子、不審な白い車の目撃証言、そして変質者のうわさ、必死に探す結衣子たちの前に、2年後、姉を名乗る見知らぬ少年が帰ってくる。喜ぶ家族の中で、自分だけが大学生になった今もわずかな違和感を抱き続けている。

【自分が読んだ学年】 中2

【お勧めの点】 中盤まで伏線がたくさんはられているので、少し「ん？」と止まることもありますが、中盤を超えるとその伏線がどんどん回収されていって、釘付けで読めます。誘拐事件が物語が始まるきっかけですが、そこに重きが置かれているわけではなく、主人公の「何が真実なのか？」ということに対しての心理描写が細かく、そこがとても面白くて、最後まで夢中で読める点がこの本の魅力です。ぜひ読んでみてください。

(根本 萌)

みのりfrom三月のパンタシア
『星の涙』 (スターツ出版)

所蔵なし

- ◆感情表現が苦手な高2の理緒は、インスタグラムが唯一、自分を表現できる場所だった。ある日、颯太に写真を見られ、なぜか急接近する。それにより理緒はだんだん自分の素を出せていく。しかし、それがきっかけで大切な友達を失いかけてしまう。どうやって解決していくのか。

【自分が読んだ学年】 中2

【お勧めの点】 友達の大切さに改めて気づかされ、自分の気持ちに素直になることが大事だと教えてくれるお話です。ぜひ読んでみてください！

(渡瀬未帆)

宮沢賢治
『銀河鉄道の夜』 (岩波書店)

913. 6/ミ

- ◆貧しい少年ジョバンニがどこまでも行ける切符をもって、「ほんとうの幸い」を探す旅にでます。

【自分が読んだ学年】 高1

【お勧めの点】 誰かのために行動することの素晴らしさや「ほんとうの幸いは何だろう」と考えるきっかけを作ってくれます。

(金田莉央)

宮下奈都

『よろこびの歌』（実業之日本社）

913. 6/ミ

- ◆ 著名なヴァイオリニストの娘で、音楽を志す御木元玲は、音大付属高校の受験を失敗し、普通科の高校へ進学する。挫折感から同級生との関わりを拒み、母親へのコンプレックスから抜け出せずにいたが、校内合唱コンクールを機に、玲の心情に変化が生まる・・・。

【自分が読んだ学年】 中1

【お勧めの点】 それぞれが、苦しみや日常生活のわずらわしさや劣等感を抱えながらも、一つの歌を一緒に歌うことで、互いの絆を深めることができ、自分の道は間違っていなかったと思える一冊です。続編もあるので、ぜひ読んでみてください。

(佐伯莉香)

木宮条太郎

『水族館ガール』（実業之日本社）

913. 6/モ

- ◆ 市役所勤めの女性が突然、水族館への出向を命じられ、数々の失敗や挫折を繰り返しながらもへこたれず、動物たちと格闘する青春お仕事ノベル。

【自分が読んだ学年】 中1

【お勧めの点】 シリーズ作品で、個性豊かな登場人物ばかりですが、可愛いだけじゃない動物たちの本当の姿や水族館の裏側が詳しく描かれています。

(栞原彩矢音)

- ◆ 市役所に勤めて三年、突然、水族館「アクアパーク」への出向を命じられた由香。イルカ課に配属になるが、そこには人間とのコミュニケーションは苦手な男・梶と、いたずら好きのバンドウイルカがいた。数々の失敗や挫折を繰り返しながらも、へこたれず、動物たちと格闘する女子飼育員の姿を描く青春お仕事ノベル。

【自分が読んだ学年】 小学6年生

【お勧めの点】 イルカだけでなく、ペンギンやラッコなども登場し、まるで水族館に行きながらその裏側をのぞいている気分になります。水族館の楽しみ方も変わるかもしれません。個性的で面白い同僚たちもあり、楽しみながら読むことができます。シリーズ9巻まであり、読めば読むほど止まらなくなると思います。

(富士原佳子)

森 絵都

『カラフル』（文藝春秋）

913. 6/モ

- ◆ 生前の罪により輪廻のサイクルから外されたぼくの魂が、天使業界の抽選に当たり、再挑戦のチャンスを得た。自殺を図った少年・真の体にホームステイし、自分の罪を思い出さなければならないのだ。真として過ごすうちに、僕は人の欠点や美点が見えてくるようになる。

【自分が読んだ学年】 中3

【お勧めの点】 死に関わるお話であるため、「生きる意味」や「自分らしさ」を考えさせられました。家族や友達との人間関係の悩みについても描かれているので、自分と重なる部分があると思います。

(鳴海柚来)

- ◆ 大きな過ちを犯して死んだ僕は、もう二度と生まれ変わることができなかった魂だが、再挑戦のチャンスが与えられた。再挑戦とは、一定の期間、下界にいる誰かの体を借りて、もう一度修行を積んでくるというもの。その「ホームステイ」中に、前世で犯した過ちの大きさを自覚したその瞬間に修行が終了となり、輪廻のサイクルに復帰するというものだった。

【自分が読んだ学年】 中1

【お勧めの点】 中3っぽい多感で繊細な感情といら立ちと、思春期独特の感じが全体の文章で表現されているところが読みやすいし、面白いです。

(堀内清香)

森 絵都

『宇宙のみなしご』（角川書店）

913. 6/モ

◆中学2年生の陽子と、一つ年下のリン。幼い頃から様々な遊びを考え、実践してきた仲良し姉弟が新しく思いついた「屋根のぼり」から始まる物語。

【自分が読んだ学年】 中1

【お勧めの点】 中学生の女の子の視点から、等身大の生活が描かれています。一生心の中に残る素敵な一文を見つけられるはずです。

（奥村 栞）

森見登美彦

『ペンギン・ハイウェイ』（角川書店）

913. 6/モ

◆僕はまだ小学校の4年生だが、もう大人にも負けないいろいろなことを知っている。毎日きちんとノートを取るし、たくさん本を読むからだ。ある日、僕が住む郊外の街に、突然ペンギンが現れた。このおかしな事件に歯科医院のお姉さんの不思議な力が関わっていると知った僕は、その謎を研究することにした。少年が目にする世界は毎日無限に広がっていく。

【自分が読んだ学年】 中2

【お勧めの点】 『夜は短し歩けよ乙女』の作者である森見登美彦さんの独特な文体が、物語の良さを際立たせています。少し変わったアオヤマ君もユーモア溢れる小学4年生で、きっと読み始めると止まらなくなる作品なので、ぜひ読んでみてください。

（尾上絵梨奈）

椰月美智子

『14歳の水平線』（双葉社）

913. 6/ヤ

◆中二病を自覚している加茶太は、家でも学校でもイラついてしまう日々を過ごしていた。夏休みに父親の故郷の島で、中2男子限定のキャンプに参加する一方、シングルファザーである父親の征人は、思春期の加茶太の気持ちを上手く掴めず、すれ違う日々悩んでいた。14歳の息子と、かつて14歳だった父親。誰にでも忘れられないたった一度の「14歳の夏」がある。

【自分が読んだ学年】 中1

【お勧めの点】 14歳という様々な物事に対して葛藤する思春期の、心が揺れ動く心理のひだが瑞々しく描き出されており、甘酸っぱいひと夏の成長物語です。

（貴田萌花）

山田悠介

『リアル鬼ごっこ』（幻冬舎）

913. 6/Yama

◆王様が「佐藤」さんを殺すために鬼ごっこをして「佐藤」さんの人数を減らす話。

【自分が読んだ学年】 高3

【お勧めの点】 どんどん「佐藤」さんが殺されていく中で、「佐藤」さんが別の「佐藤」と出会い、協力するところです。

（小山璃紗）

ルイーザ・メイ・オルコット著／吉田勝江訳
『若草物語』（角川書店）

933. 6/オ/1

◆南北戦争中のアメリカで暮らす、マーチ家の一年間の物語。マーチ家では、父が戦地へおもむき不在の中、優しい母と四人姉妹は手を取り合ってつつましく暮らす。立派な「小婦人」になるべく、姉妹は時に失敗しながらも奮闘し、成長していく。

【自分が読んだ学年】 中2

【お勧めの点】 貧乏や病気といった困難の中で、希望を失わずに一步步進んでいく人たちの姿は、いつの時代も変わらず人の心を動かす。

(末吉秋子)

サーシャ・バイン著／高見浩訳

『心を強くする：「世界一のメンタル」50のルール』（飛鳥新社）783. 5/B

◆テニス選手・大坂なおみを世界1位に導いたコーチであるサーシャ・バイン氏が、大坂選手が世界1位になるまでの道のりを告白。何度も挫折を経験してきた大坂選手の真のメンタルとは。

【自分が読んだ学年】 高1

【お勧めの点】 大坂選手が試合中にくじけた際に、言葉をかけ続けたサーシャ・バイン氏が、メンタルを強くするためのルーティーンを語っている。部活動や勉強で壁にぶつかった時におすすめの一冊です。

(加藤くらら)

コナン・ドイル著／駒月雅子訳
『バスカヴィル家の犬』（光文社）

933. 6/シ/7

◆かつて悪行を重ねた当主ヒューゴー・バスカヴィル卿とその仲間が、大きな犬に殺されるという事件が起こり、最初はワトソン一人だったけど、途中からホームズも参加して事件を解いていく。

【自分が読んだ学年】 中2

【お勧めの点】 犯人を自分の中で推理しながら読んでいくと楽しい。

(宮野くるみ)

ミヒャエル・エンデ作／上田真而子，佐藤真理子訳

『はてしない物語』（岩波書店）

080. 9/イ/501

◆10才の少年バスチアンが本の中に吸い込まれ、本の中の国であるファンタージェン国を虚無から救おうとして・・・

【自分が読んだ学年】 小学5年生

【お勧めの点】 愛蔵版で読むと、自分も物語を体験しているかのような気分を味わうことができます。繰り返し読むことで、新しい魅力を発見することができる二つとない本です。彼の有名な『モモ』と合わせて読むとより楽しめます。

(宇井 藤)

ポール・フライシュマン著／片岡しのぶ訳
『種をまく人』（あすなろ書房）

933. 8/F

◆アメリカ北東部オハイオ州の工業都市クリーヴランドにあるごみ溜めの空き地を舞台に、貧民や移民や黒人の厳しい生活と輝かしい希望が描かれたフィクション小説。

【自分が読んだ学年】 中2

【お勧めの点】 難しい表現がなく、映像が頭に浮かびやすい本。知らない者同士が繋がっていく心温まる物語です。

(坪本紗佳)

ルース・スタイルス・ガネット作／わたなべしげお訳
『エルマーのぼうけん』（福音館書店） 933. 8/G

◆エルマー少年が竜を助けるためにたった一人で船に乗り込みます。行く先々で困難を乗り越えるエルマーの勇気と強さを描いています。

【自分が読んだ学年】 中学

【お勧めの点】 表紙などの絵の色彩がすごくきれいで、見ているだけでもひかれます！（土屋実穂）

ラフカディオ・ハーン作／平井呈一訳
『怪談』（岩波書店） 933. 6/ハ

◆日本各地の伝説、幽霊話。

【自分が読んだ学年】 高3

【お勧めの点】 怖いというより不思議な話が多い。

（福田百花）

デボラ・インストール著／松原葉子訳
『ロボット・イン・ザ・ガーデン』（小学館） 933. 7/イ/1

◆多種多様なAIが人間と共存する近未来のイギリス。無気力に毎日を過ごしていたベンは、妻のエイミーともうまくいかなかった。しかしそんな中、家の庭に壊れかけのロボットが現れ、世話を焼くうちにベン的心境にも変化が起きていく。

【自分が読んだ学年】 中2

【お勧めの点】 最初は無気力だったベンが、タングに振り回されながらも旅をする過程でほっこりします。洋書ですが、登場人物も多くはないので覚えやすいです。映画にもなった作品です。一度読んだ方も一から読み返してみてもいいかもしれません。

（山崎響子）

ダニエル・キイス著／小尾芙佐訳
『アルジャーノンに花束を』（早川書房） 933. 7/キ/1

◆主人公の青年・チャーリーは知的障害のため、ハツカネズミのアルジャーノンと同じ手術をする実験を受けます。ところが、その実験がもたらしたのは良いことばかりではありませんでした。

【自分が読んだ学年】 中2

【お勧めの点】 手術を通じて、たくさんの経験をして成長するチャーリーの姿を見て、悲しくも心が温まる物語です。

（緒方愛珠）

キム・スヒョン著／吉川南訳
『私は私のままで生きることにした』（ワニブックス） 159/K

◆今を生きる普通人へのいたわりと応援を詰め込み、自分を認め、愛する方法を伝える。

【自分が読んだ学年】 中3

【お勧めの点】 自分らしさ、自分の個性を尊重することの大切さを学べ、そのままの自分を好きになれる。自信が持てる。そんな本です。

（森 瑞希）

- ◆「いつも、人からどう見られるかを気にしていた」という人が、“私のままで生きることにした”人になれるような、“自分”を大切に生きていくために忘れないでほしい70のことが書かれているイラストエッセイです。

【自分が読んだ学年】 中2

【お勧めの点】 中学生は環境も大きく変化し、人間関係や勉強のことなど様々な要因で悩み、落ち込むことがあると思います。私自身もそうで、中学生の“自分”の存在について考えることが多くありました。そんな時にこの本は、様々な悩みにうまく対処し、自分の感情をコントロールできるようにさせてくれました。

(藤井愛弓)

アン・M・マーティン, ローラ・ゴドウィン作／三原泉訳 『アナベル・ドールの冒険』 (偕成社)	933. 8/M
------------------------------------------------------------------	-----------------

- ◆アナベルドールという人形が、ドールハウスを出て冒険する話。

【自分が読んだ学年】 中1

【お勧めの点】 ファンタジーな内容なのでおもしろい。

(西口友莉奈)

ルーシー・モード・モンゴメリ作／岸田衿子訳 『赤毛のアン』 (新潮社)	933. 7/モ/1
------------------------------------------------------	-------------------

- ◆ちょっとした手違いから老兄妹に引き取られることになるアン。二人は少しずつアンを愛するようになり、アンは自然の中で成長していく。

【自分が読んだ学年】 中1

【お勧めの点】 この本の世界を身近に感じられるところ。主人公が女性として強く成長するところ。

(舌古和奏)

ルーシー・モード・モンゴメリ著／村岡花子訳 『可愛いエミリー』 (新潮社)	933. 7/モ
--------------------------------------------------------	-----------------

- ◆両親を失い、親戚に引き取られた少女エミリーが、小さい頃から感じていた「ひらめき」を亡くなった父への手紙という形でつづる。そんなエミリーは小説家を目指す。

【自分が読んだ学年】 中2

【お勧めの点】 エミリーは、『赤毛のアン』の作者でもあるモンゴメリと共通点をたくさん持つ少女であり、ファンタジー要素もたくさん感じるが、それだけではない作品。あまり有名ではないが、『風の少女エミリー』としてアニメ化されており、合わせて観ると二倍楽しめる。繊細な表現で書かれた幼く無邪気なエミリーの見ている世界を見ることで、自分の日常の風景も少し違って見えるはず。

(岩本小夏)

ランドール・マンロー著／吉田三知世訳 『ホワット・イフ?: 野球のボールを光速で投げたらどうなるか』 (早川書房) 400/マ

- ◆「野球ボールを光速で投げたらどうなるか？」など現実でありえないような問いに対して、計算や実験などの科学的思考を用いて答えを導き出す本。

【自分が読んだ学年】 高1

【お勧めの点】 どんな非現実的な質問にも、筆者が真剣に答えを導き出そうと試行錯誤する点がとても面白い。また、最後に筆者のユーモアのあるまとめになっていて、どんどん次の問いの答えを読みたくなる。

(湯本志築)

ジョージ・オーウェル著／高橋和久訳
『一九八四年』（早川書房）

933. 7/オ

- ◆1984年、意図的に年々縮小される言語。30グラムから20グラムへと減配されるチョコレート。ビッグ・ブラザーの支配するこの社会はきっと何かおかしい。なんとか彼らの目の届かない抜け目へ避難することは不可能なのか。

【自分が読んだ学年】 高2

【お勧めの点】 SF×全体主義をテーマにした本書は、模試やセンターの過去問でも題材として扱われることがよくあります。独自の概念であるニュースピークや、二重思考は現実離れしているようでありながら合理的。不朽の名作です。

(田中 葵)

R・J・パラシオ作／中井はるの訳
『WONDER（ワンダー）』（ほるぷ出版）

933. 8/P

- ◆主人公のオーガストは、遺伝子疾患により他の人と少し違った見た目です。この物語は、そんなオーガストを支える家族や周りの人々の愛の物語です。

【自分が読んだ学年】 小学6年

【お勧めの点】 初めて読んだのは小学6年生でしたが、本があまり好きではない私も、何度も読み返してしまうぐらいとても素敵なお話でした。オーガストは27回も顔の手術を受けたものの、普通に外に出ることは難しく、そんなオーガストの心の支えとなった家族の愛の深さや、オーガスト自身の心のきれいさに心惹かれました。次々と、視点が変わっていくところもポイントです。

(浅田睦季)

- ◆オーガスト・プルマンは普通の男の子。ただし、顔以外は。生まれつき顔に障害があるオーガストは、初めて学校に通うことになった。オーガストを避ける人がいる一方で、オーガストの話がおもしろいという同級生もいた。全ての人に読んでほしい、心振るえる感動作。

【自分が読んだ学年】 小学6年

【お勧めの点】 いじめを題材にした児童向けの小説で、難しい言葉が出てこないの、普段本を読まない人でも、どの年齢の人でも読みやすい本です。主人公・オーガストだけでなく、同級生や姉などの視点からも語られているので、色々な想いを感じ取ることができ、前向きな気持ちになれる本です。

(武田陽和)

- ◆遺伝子疾患により、人とは違った顔を持つ少年・オーガスト。今まで自宅でしか勉強をしたことがなかったオーガストが学校へ通うことになる。そのオーガストの波乱万丈の学校生活を描いた物語。

【自分が読んだ学年】 中1

【お勧めの点】 小学生が主人公の本なので、小学生らしい悩みや出来事があってなつかしい気持ちになります。オーガストが、徐々に学校に慣れていき、はじめは一人ぼっちで友達がいなくてから、彼の人柄で、友達がたくさんできて最後には学校の中心になっていくところに感動します。

(田中望園)

- ◆生まれつき遺伝子疾患により、人とは変わった顔を持つ少年オギーが、見た目に対して偏見やいじめを受けながらも、家族や友人、先生たちに支えられ、成長していく物語。

【自分が読んだ学年】 中1

【お勧めの点】 作中には先生による格言がたくさん書かれており、オギーだけでなく読んで自分自身も前向きな気持ちになれる点。本当の優しさや友人、家族の存在について改めて考えることができる点。

(居場穂乃嘉)

ペク・セヒ著／山口ミル訳

『死にたいけどトッポッキは食べたい』（光文社） 929. 16/P

◆なんとなく気持ちが沈み、自己嫌悪に陥る。ぼんやりと、もう死んでしまいたいと思いつつ、一方でお腹がすいてトッポッキを食べたいと思う。人間関係や自分自身に対する不安や不満を抱え、繊細な自分自身に苦しんだ経験のあるすべての人に寄り添う話となっている。

【自分が読んだ学年】 高3

【お勧めの点】 医者と患者（筆者）の対話形式で続いていくため、筆者の自己肯定感の低さで悩んでいる点や他人からの評価を気にしすぎてしまう点と、読者の悩みが重なれば、医者の先生の回答によって、自分の考え方にメスを入れられ、客観視することができます。漠然とした不安や悩みを抱えている人々にとっては、自分と向き合うことができる一冊になると思います。

（酒井悠乃）

エレナ・ポーター作／木村由利子訳

『少女ポリアンナ』（角川書店） 080. 9/イ/102

◆両親を亡くし、一人ぼっちで厳しい叔母の家に引き取られた少女ポリアンナが繰り広げる物語。亡き父との約束「うれしい探しゲーム」を通して、町中の人たちや叔母の心を動かしていく物語です。

【自分が読んだ学年】 中1

【お勧めの点】 両親が亡くなり、厳しい叔母の家に預けられたポリアンナが、様々なことに「嬉しい」と感じるポジティブなところを通して、彼女から明るさや勇気をもらえる点です。

（石田莉子）

サン＝テグジュペリ著／河野万里子訳

『星の王子さま』（新潮社） 953. 7/サ

◆砂漠の中心に不時着した飛行士の前に現れた不思議な少年の話から、彼の存在が次々明らかになる。

【自分が読んだ学年】 中1

【お勧めの点】 自分が生きる意味を問いかけられる本だと思う。大切なものは見えないということや、誰かを愛して大切にすること伝えるように感じる。

（若松怜椰）

アーネスト・トムソン・シートン著／石崎洋司訳

『シートン動物記』（講談社） 所蔵なし

◆この話のうちの一つ、「オオカミ王ロボ」。ある日、シートンのもとに牧場の家畜がオオカミに殺されるという手紙が届く。ロボの存在を知ったシートンは、群れを退治するために追跡を開始。すると、群れの長、ロボの前を歩く足跡が。その正体とは？シートンVSロボの戦いの決着はいかに。

【自分が読んだ学年】 中2

【お勧めの点】 すべてがシートン自身の経験をもとに作られており、ノンフィクション小説といっても差し支えないほど、動物の行動がリアルに描かれている点。

（吉田萌菜）

ソン・ウォンピョン著／矢島暁子訳
『アーモンド』（祥伝社）

929. 13/S

◆扁桃体が人より小さく、怒りや恐怖の感情が分からない主人公が、15歳の誕生日に起きたある事件により、一人ぼっちになってしまう。そんな時に一人の“怪物”に出会う。

【自分が読んだ学年】 高1

【お勧めの点】 感情を持たない主人公が家族以外の人と関わりながら、だんだんと感情への理解を深めていく様子が楽しめます。翻訳本ですが、とてもスムーズに読めます。

(井上ひなた)

ジェイムズ・ティプトリー・ジュニア著／浅倉久志訳
『たったひとつの冴えたやりかた』（早川書房）

933. 7/テ

◆16歳の誕生日に両親からプレゼントされた小型スペーススクーペを改造し、宇宙へ飛び立つコーティの愛と勇気の探検譚。

【自分が読んだ学年】 中3

【お勧めの点】 「SF」という分野の本を一度も読んだことのない人へ、はじめてのSFにぴったりの未知と感動に出会えます。古き良きSFを一冊は読んでおきたいならば、この本でSFの神秘と宇宙観に触れられます。

(田村陽菜)

マララ・ユスフザイ、クリスティーナ・ラム著／金原瑞人、西田佳子訳
**『わたしはマララ :
教育のために立ち上がり、タリバンに撃たれた少女』**

(学研パブリッシング) 289. 2/Y

◆17歳で最年少となるノーベル平和賞を受賞したマララ。パキスタンで普通の生活を送っていた。しかし、ドキュメンタリーに出演したことでパキスタンを支配しているタリバンの標的となる。15歳になった時、スクールバスで襲撃を受け・・・

【自分が読んだ学年】 中1

【お勧めの点】 普通の生活を送り、襲撃を受けてから、テロに立ち向かっていくまでを、マララ自身で書いている。一人の少女の親しみやすい筆致から勇気、情熱、聡明さが伝わってくる本です。

(本田乃愛)